

ガッコ親父の



久しぶりに幼なじみの友人が訪ねて来た。「松ちゃん、元気かね？まあ、ケガねーことだけは分かっているから、心配はしてないけどな」と、いきなり失礼なことを言った。玄関で応対に出ていた妻の貴代は「そだねー」と笑った。この友人は少し離れた町で少年野球の監督をしている。ゴマ塩頭をなでながら、手みやげの「しまっちゅ伝蔵」の一升瓶を差し出した。「昔に比べて、今の子達は随分体格が良くなったよな」と友人が話を始めた。しかし、運動能力はどうだろうか。今は体を動かすことも少なくなっただけで、それに、スポ根的な練習は嫌がられる時代になっている。「それはそれとして、最近では自分の能力もわきまえないで、高望みばかりする子も増えてきたから困ってしまうよ」と友人は嘆いた。「最近ではあの大リーグに行った選手の影響力か、二刀流を目指す子が多くなってるな。打順4番でピッチャーなんて特別な子だけだよ。それにチーム編成を考える時はいつも悩むが、最近ではいろいろと親が口出ししてくる事もあつし、大変だよ」さらに「外野手をやらせようとしたら、『ピッチャーじゃなかったら二刀流ができないじゃないか』と親から度を越したクレームもあつたり、本当に困ったもんだ」と言った。親の気持ちも分からんではないが、そこまで子供のことに口出すのはどうだろうか。この監督はえこひいきなどしない良いやつだ。監督のことをもっと信じて、任せられないのかと松次郎は思った。「運動神経の塊だった昔の松ちゃんくらいだったら二刀流も考えんでもないが、特にその親は監督に全てを任せますとい常圧蒸留うので、期限外だったけど無理を聞いて入団させてあげたのに」なんてわがままな親だ。それを聞いた松次郎は頭に血が上りはじめた。若い頃から盆栽の曲がった枝にも文句を垂れる程の曲がったことが太嫌いな松次郎であった。監督にお任せしますとか、男が一度口にしたことは最後までそれを貫かなくてはならない。監督が決めたポジションのことで文句をいうなんて、台風シーズンでもないのに頑固オヤジの怒りの渦は巻き始めた。

しまっちゅ伝蔵
でん ぞう

その時、電話機が鳴った。「あなた、博喜から電話ですけど」と貴代の声でした。孫には目が無い松次郎は直ぐに受話器を握った。今度の日曜日、野球の練習が終わった後、松次郎の家に遊びに行つて良いかという内容だった。「ところで、博喜はどこを守っているのかな？」と松次郎は質問した。「ライトを守っているけど、パパがピッチャーにして貰えとうるさいんだ」松次郎はドキッとしたり、「まさか監督の名前は田中じゃ？」「えっ、おじいちゃん、なんで監督の名前知ってるの」松次郎は眩暈がしそうだったが、堪えた。「でも、おじいちゃん、僕はマリナーズの51番が好きなんだ。パパには悪いけど、外野一筋で頑張ってみるよ」。

昔ながらの手造り
こだわり焼酎
喜界島の豊かな大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた「しまっちゅ伝蔵」黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのkokoroのある味と香りです。

「博喜にお願いがあつたんだけどな。日曜日は絶対にパパと一緒に連れてきてくれよ」二刀流が好きらしい長男とまた飲まなくてはならなくなつた。それにしても、なぜこんなに飲む機会が多いんだろう、ふふふ。

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連296番地12
TEL 0997(65)0251

2009年10月喜界島は「日本で最も美しい村」連合に選ばれ、加盟しました。喜界島酒造は、この活動を応援しています。

the most beautiful villages in japan
喜界町 鹿児島県

外野手に乾杯!!